



高い目標をみんなで創り、実現するためには？ 《行政課題解決セミナー》

一仕事には様々なステークホルダーが絡み合い、お互いの利害が対立してしまうことも少なくありません。その中で高い目標を創り、実現するのは困難なのは言うまでもありません。

また、時には上から不可能な目標が示され、どうすればいいかわからず、途方に暮れてしまう経験がある方も少なくないのではないのでしょうか？

今回のワークショップでは、不可能と思われる高い目標でみんなの志を共有し、それを実現するためにはどうすればいいか、TOC流の解決方法を学びながら、実際の事例を使って、この方法のパワフルさを実感してもらいたいと思っています。-(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回のワークショップでは、「全国の行政に全体最適のマネジメントを広めるには」という行マ研の目標を達成するために、12月4日に開催するシンポジウムを大成功させたいという行マ研事務局の伊原の悩み事について議論しました。

ワークショップに入る前に、行政に全体最適のマネジメントを導入し、目覚ましい成果を上げている米国ユタ州の映像を視聴しました。ユタ州のシンポジウムで各セクションの行政マンが成果を発表し合い、1300人も参加者がその成果を讃えている映像に、憧れを抱きました。田中理事長からは、「米国にできて、日本がなぜできないのか、考えなければならぬ。」と疑問が投げかけられました。そして岸良さんからは、「360°がステークホルダーの行政の仕事では、全体最適の問題解決しか通用しない。足りないのは全体最適の問題解決力のみである。」とのコメントがありました。

ワークショップの冒頭、岸良さんから、こういうときはODSCを使うんだけど、説明するのは結構大変。私が博士の動画を使うみたいに、みなさんもGoldrattChannelの動画を使えばいかがでしょうか？

とお話があり、動画を見てから「さあ、やってみましょう」とワークショップがスタート。

ODSCのファシリの極意は、言ったことをそのまま書くこと。自分の言葉がそのまま入ること、モチベーションが上がる。また、沈黙の時間があることはいいこと。沈黙の時間は、考える極めて品質の高い時間である。

とコツの解説。「目的は何ですか?」、「成果物は何ですか?」、「成功基準は何ですか?」の質問で、ODSCシートが完成。続いて、段取り八分の工程表を作成。

ODSCシートを右に貼って工程表を作っていく。付箋は動詞で書くのがコツ。

と岸良さんの解説。みんなの知恵が結集して、あっという間にシンポジウムのワクワクする目標と工程表ができ、大成功に向けて1歩を踏み出すことができそうです。

《今回の学び》

ワークショップの前に動画を活用することで、ファシリテーターにゆとりができるし、岸良さん解説を使えるのは有効だなと思いました。そして、目標と具体的な工程を共有することで、応援を得ることができると実感しました。



《他の発表》

◆ 学校が楽しくなるオンライン連絡網がわのわの取組 林そらさん

講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

全体最適の行政マネジメント研究会について

・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・ 次回のセミナーは2021年9月11日に実施予定

<https://www.kokuchpro.com/event/20210911tocgyousei/>